

都市再生整備計画 事後評価シート 第3期島原市中心市街地地区

令和5年3月

長崎県島原市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長崎県	市町村名	島原市	地区名	第3期島原市中心市街地地区			面積	381ha
交付期間	平成30年度～令和4年度	事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	1,925百万円	国費率	40%		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名									
		基幹事業	道路(霊南山ノ神線)、地域生活基盤施設(島原城大手門跡整備事業)、高質空間形成施設(島原城周辺無電柱化事業、島原城外周道路美装化事業)、街なみ環境整備事業(島原中心部商店街地区)								
		提案事業	地域創造支援事業(商店街活性化事業、島原城堀内整備事業、島原城跡公園排水施設整備事業、島原城矢狭間堀改修事業、島原城天守閣整備事業)、まちづくり活動推進事業(まちづくり推進協議会活動支援)								
	当初計画から削除した事業	事業名				削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業	地域生活基盤施設(島原城大手門跡整備事業)、高質空間形成施設(島原城周辺無電柱化事業、島原城外周道路美装化事業)				島原城周辺無電柱化事業等は、別の補助事業で実施するため、関連事業へ位置付けた。また、島原城大手門跡整備事業の事業箇所は長崎県指定史跡である「島原城跡」の範囲内に存在し、文化財保存の観点から計画期間内の実施が困難となったため。		「指標4:観光入込客数」等への影響が考えられる。		
		提案事業	地域創造支援事業(島原城堀内整備事業、島原城跡公園排水施設整備事業)				事業箇所は長崎県指定史跡「島原城跡」の範囲となっており、文化財保存の観点から計画期間内の実施が困難となったため。		「指標2:島原城への登閣者数」等への影響が考えられる。		
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(親和町湊広場線、安徳新山線、堀町縦線)				(親和町湊広場線、安徳新山線) 中心市街地へのアクセス道路としての役割を持ち、本事業箇所は、狭小な道路しかなく、緊急車両の通行に支障をきたすだけでなく、学童の通学においても危険であることから、整備を行い、地域住民の利便性の向上と沿線地域の良好な市街地形成を図り、中心市街地の活性化を図るため。 (堀町縦線) 市街地中心部の交通混雑の解消を目的とするとともに、一部区間は一方通行であり歩道もないため、緊急車両の通行に支障をきたすだけでなく、学童の通学においても危険であることから整備を行い、地域住民の利便性の向上と沿線地域の良好な市街地形成を図り、中心市街地の活性化を図るため。		「指標1:中心市街地のアメニティに対する満足度」等への影響が考えられる。		
		提案事業	—				—		—		
	交付期間の変更	当初	平成30年度～令和4年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	—					
		変更	—								

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度					
	指標1	中心市街地のアメニティに対する満足度	点	2.72	H29	2.97	R4	—	2.62	×	あり なし	○	本計画に位置付けられた各事業の実施により、中心市街地の利便性・快適性の改善が見込まれたが、新型コロナウイルス感染症拡大による人の移動自粛・制限等により、整備により改善、向上した中心市街地の利便性・快適性等を享受する機会が減り、目標には至らなかった。	R5.9
	指標2	島原城への登閣者数	人／年	128千人	H28	134千人	R4	—	67千人	×	あり なし	○	島原城築城400年に向け、島原城矢狭間堀改修事業や島原城天守閣整備事業等による島原城を整備行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大による人の移動自粛・制限等により、島原城への登閣者が減少し、目標には至らなかった。	R5.7
	指標3	商店街歩行者通行量	人／9h	4,733	H29	4,733	R4	—	3,123	×	あり なし	○	堀町縦線等の道路整備や商店街活性化事業の実施等、人を呼び込むための基盤整備や支援が進められており、中心市街地の活性化が期待されたが、新型コロナウイルス感染症拡大による人の移動自粛・制限等により、当初より通行量が減少し、目標には至らなかった。	R5.5 R5.8 R5.10
	指標4	観光入込客数	人／年	1,166千人	H28	1,369千人	R4	—	706千人	×	あり なし	○	島原城天守閣整備事業等をはじめ、島原城を活用した魅力向上など、歴史資源を活用した観光地としての魅力向上が図られ、観光客受け入れの基盤が整備されたが、新型コロナウイルス感染症拡大による人の移動自粛・制限等により、入込客数(観光客等)が減少し、目標の達成に至らなかった。	R5.7

	指 標			従前値		目 標 値		数 値		目 標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
			単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み		
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1	—	%	—	—				—			—	—
	その他の 数値指標2	—	%	—	—				—			—	—
4) 定性的な効果 発現状況	島原城や商店街に関する事業や島原市の中心部に関する道路事業等によって、中心部の活性化や賑わい創出が図られている。												
5)実施過程の評価		実施内容					実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	—					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—		
	住民参加 プロセス	①住民の参加による道路や水路の清掃 ②地区住民アンケートの実施 ③まちづくり推進に向けた研究会の開催					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●歴史的景観と湧水を活かしたまちづくりを図るため、引き続き住民等の自発的な参加を促すため意識の啓発等を行う。また、地域目線の持続的なまちづくりを図るため、引き続き住民等の自発的な参加を促すため意識啓発等を行う。		
	持続的なまちづくり 体制の構築	まちづくり活動推進事業(まちづくり推進協議会の活動支援)					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●中心市街地の活性化を図るため、今後もまちづくりに向けた企画・支援を行う。		

様式2-2 地区の概要

[illegible]